

第12課 霊の結ぶ実は真理 3月20日

安河内 アキラ

暗唱聖句：「わたしを尋ね求めるならば見いだし、心を尽くしてわたしを求めるなら、わたしに出会うであろう、と主は言われる。」エレミヤ29：13, 14

今週の聖句 歴代誌下25：2、詩篇51：19、エレミヤ書29：13, 14、ヨハネ7：16, 17、14：6、17：3、ヘブライ5：14

今週の研究：真理とは、わたしたちの知っていること、いわば客観的な「現場事実」を指します。しかし、同時に、真理には主観的な要素、つまり学んだことに対して個人的にどのように応答するかが含まれています。これら両方の要素が満たされるとき、私たちは霊の結ぶ実としての真理を現すようになります。

月曜日：聖霊は真理（イエス）の客観的側面と主観的側面の両方を明らかにされます。聖霊が来れば、イエスについてあかしし、「罪について、義について、また、裁きについて、世の誤りを明らかに」されます（ヨハネ16：8）。これが、世についての、神についての、現実についての厳しい事実です。

聖霊の働きはただ私たちにこれらの真理を教えるだけではありません。私たちの生き方はそれらを理解することによって変えられる必要があります。私たちの生き方がそれによって変えられなければ、これらの客観的で永遠の真理は何の役にも立ちません。

この過程の一つが（たぶん最も重要な部分）、エレン・ホワイトの言うように、私たちが岩なるイエスの上に落ちて砕かれることです（詩編51：19参照）。

火曜日：誠実であることは重要です。というのは、誠実な人、真実で正しいことに献身していない人は、ふた心の人だからです。そのような人は他の何かに心を引かれているので、それを捨てない限り、いつまでもそれに従っている限り、心の神の前に「サレム」、つまり「完全」で、「全き」ものとなりません。重要なことは、自己を完全に捨てて、心から神に献身することです。これは容易なことではありません。

真の意味で必要なのは、昨日の研究で学んだように、岩なるキリストの上に落ちて、砕かれることです。水曜日：悪のうちにとどまり、悪を行えば行うほど、私たちの良心は汚れ、真理（イエス）から離れてしまうことは明らかです。私たちは救われるために必要な十二分の知識を得ることができます。

悲しいことに、救われるために十二分の客観的知識を持った人の中にも、最後の火に焼かれる人がたくさんいます。何度も言いますが、客観的真理だけでは、霊の結ぶ実とは言えません。生活の中で実践される真理こそ、私たちの結ぶべき実です。

「真理を持っている」とわたしたちの教会のことを語っているのを聞いたことがあるのではないのでしょうか。これは自分たちの教えの正しさを言いたいがための表現でしょうが、そもそも真理とは何でしょうか。自分たちは真理を持っていると言っているわりには、そのあたりをあまり考えてこなかったのではないのでしょうか。

今週の学びでは真理には客観的側面と主観的側面があると教えています。客観的な真理とは、事実や真実そして原則などが挙げられています。いつの時代においても普遍なことを指していると言えるでしょう。そのようなことをできるのは、ただ一人だけ神さましかいらっしやいません。

そして主観的な真理とは、個人的な美德としての真理と書かれており、客観的な真理を示された時に、どのように応答して行くか、わたしたちがどれだけ神さまのみこころを反映できるか。それによってわたしたちも真理を持っているものになれるのかもしれない。この真理をわたしたちに教えるのが聖霊です。聖霊は、わたしたちに神さまについて、そのみこころについて教え、諭し、導いてくださいます。そして個人的に何をしなければならぬかを示してくれるのです。

先週のこと、わたしは一つの失敗をしてしまいました。その結果、今風に言えば「へこみ」ました。その直前に、心の中で「やめたほうがよい」という声が出たのですが・・・無視したというのか勢いで進んでしまい失敗を犯しました。今になって思い返すと、きっと聖霊が良心に働きかけていたのでしょうね。けれどもそれによって、自らのほんとうの姿、弱さなどを見せつけられました。足りなかった知恵を神さまに祈り求めました。

今週の学びの中で、イエスの上に落ちて砕かれることこそが、真理を受け入れるために必要だと二回も書かれていました。自分の経験などに自信があると、神さまの声が聞こえなくなりがちです。そこには聖霊の働く余地がありません。

神さまとの正しい関係にある時に、そして神さまとつながっている時に、わたしたちは真理の光を受けて正しい選びができるのです。